



# 「地域の公民館」めざす 献血&東北物産フェア

## (株)ダイエー

(株)ダイエーは、福島県会津若松市に本拠をおく、創業46年の老舗パチンコチェーン。現在、東北地方を中心に24店舗(平成24年1月現在)を展開しています。「地域の公民館を目指す」を経営姿勢の

基本におき、地域密着型の店舗経営を貫いてきました。

それだけに、地域貢献、社会貢献への意欲には

並々ならぬものがあります。東北地方を襲った東

では、ダイエーはいち早く立ち上がり

ました。「TAKE ACTION」。自分たち

でできることは何かを模索して行動すること、それが

合言葉だそうです。たとえば、医療に必要な血液確保のための献血活動、日本赤十字社血液事業部が統括する

(上)南相馬市長へ寄付金を手渡す(下)福島県白河市の仮設住宅で炊き出しをして汗を流すダイエー社員(1月24日)



「献血サポーター」に参加しました。ダイエー町北町店・SC町北町店の駐車場で、日本赤十字社の献血バスを設置し献血を行いました。ダイエーのスタッフはむろん、来店のお客様にも協力を得て、多くの献血を集めました。

原発事故も重なった地元福島県ではその影響はとりわけ深刻でした。被災直後はむろん、その後も風評被害などで、経済活動は大打撃を受けています。ダイエーでは、地元企業

より名産品を仕入れ、お客様への景品として提供し、売上金の一部を被災された方に寄付する「東北物産フェア」を、昨年の7月から9月まで開催しました。フェア開催当初からとくに関東地方などで大きな反響を得ました。多くのお客様にもご協力をいただきました。

### 震災をきっかけに得た絆

担当の本社総務部岩間尚之部長は、「福島を応援して頂ける気持ちを感じました。今回の東北物産フェア



大好評の「東北物産フェア」

アの売上金の一部と店頭で実施している募金と合わせて、地元新聞社である福島民報社へ寄付させて頂きました。「地元企業として何かできることはないか」と考えた末の行動でしたが、それまで交流のなかった方ともこころの交流が広がり、地元企業としてのあり方を深く考えさせられました。震災をきっかけに得た地域の絆を力に、今後も継続して地域貢献を行って参ります」と決意を述べていました。

福島県の中でも南相馬市は、地震津波の被害はむろん原発事故からの影響も深刻です。昨年8月になってようやく営業再開に漕ぎ着けたダイエー原町店は、この南相馬市にあります。地域の人も浅からぬ関係にあるところから、ダイエーではこれまでに集めた義援金を高機能マスクを市に寄贈しました。店舗での営業再開を通じて地域活性化に務め

ると同時に、地域社会の再建を支援する活動にも取り組んで行く予定です。

震災関連の支援以外では、本拠地の会津若松で、従来から史跡会津鶴ヶ城復元計画の支援活動が挙げられます。白虎隊で有名な会津鶴ヶ城は、戊辰戦争の後、一度は取り壊されましたが、地元の強い熱意により、昭和40年に天守閣が復元されました。平成27年がその天守閣復元50周年にあたり、地元ではさらに史跡全体の発掘調査をはじめとする総合整備計画が進んでいきます。ダイエーでは、店内カウンターに募金箱を置き、地域の方から募金を募り、50周年事業への支援を行なっていました。

身近な地元への支援と広い対象の支援を目的とした社会貢献活動。ダイエーのお店に来れば、いずれにも気軽に参加できる、文字どおり「地域の公民館」を目指すダイエーです。



再開した南相馬原町店。待ち望んでいた地元の人に歓迎を受けて